

コラム ～先人の功績を訪ねて～

豊平川初の渡し守

志村 鉄一

道都札幌市民の母なる川である豊平川は、江戸時代末期には現在の水量の五倍から十倍もあり、大雨や雪解けのために洪水を繰り返す暴れ川であったと言われています。

この豊平川の渡し守として、札幌に初めて定住した和人と呼ばれているのが「札幌開祖」とも呼ばれている志村鉄一です。鉄一は、五十歳を超えていた一八五七年に江戸幕府が豊平川に渡船場と通行屋を設けた際、渡し守として任命され、豊平川の東岸に家族と共に移住しました。この渡船場は交通の要所で、行き交う旅人は必ずここで渡し守の世話にならなければならず、幕府の役人や、探検家で北海道の名付け親である松浦武四郎もここの通行屋に宿泊していました。

豊平川の渡し船は、時代が江戸から明治に変わっても続き、鉄一は、東岸の渡し守と通行屋の番人の仕事を続けていきましたが、明治政府が札幌に開拓使を置き、通行屋を創成川のほとりに移す際、鉄一は通行屋としての役目を解任されたと言われており、渡し守の職を失った鉄一は、その後、失意の中、亡くなりました。

時代は流れ、現在、豊平川の川岸には渡船場をただ一筋に守り続けた鉄一の業績をたたえる碑が建てられています。鉄一は、歴史の証人として、今も豊平川の歴史を見守り続けているのです。



〔志村鉄一の碑〕

鉄一をしのいで、毎年八月には、豊かな緑に囲まれた記念碑の前で、慰霊祭が行われています。

- * 渡し守…渡し船の船頭
- * 渡船場…渡し船の発着所
- * 通行屋…当時の宿泊所
- * 開拓使…北海道の開拓や経営のために明治政府が設置した機関